

第2回

若手研究者報告会

日時 2018年12月8日(土)・9日(日)午前・午後 (プログラムは裏面をご参照)

会場 京都大学稲盛財団記念館

(住所：京都市左京区吉田下阿達町46)

案内地図https://www.kokoro-japan.org/info_material/inamori.pdf

文科省科学研究補助金 新学術領域研究

「グローバル秩序の溶解と新しい危機を超えて：関係性中心の融合型人文社会科学の確立」

(略称「グローバル関係学」)は、平成28年度より、拠点となる千葉大学を含めた

研究教育諸機関における社会科学、人文科学の最先端の学者を結集し、

「グローバル関係学」という新たな研究領域の確立を目指して研究を進めています。

「グローバル関係学」が問題視するのは、現在、中東やアフリカ、アジアや南東欧など、世界各地での紛争、対立が、情報や思想・モノやカネ・人の移動のグローバル化などの影響を受け、複雑に絡み合うことによって、国際的な危機をもたらしていることです。

こうした現代的諸問題が示すのは、20世紀までの主権国家とそれを軸とした国際社会という近代社会科学的「常識」が崩壊し、社会の安定と発展を確保してきた諸制度が機能不全に陥っているという、危機的な事実です。しかし、こうした「新しい危機」ともいえる事象について、分野横断的な包括的視座をもって分析した研究は、いまだ存在しません。危機に瀕している現代のグローバル社会の問題を読み解くには、主体そのものを分析の対象とするだけではなく、主体内部の関係性や、さまざまなレベル、規模の主体が相互に関係しあう、その関係性の変化と相互連関性を見ていくことが、必要です。「グローバル関係学」は、さまざまな関係性に光を当てた研究を、狭い範囲の共同体からグローバルなネットワークまで、幅広く行い、諸学問の壁を壊し、現実の危機にキャッチアップできる、新しい学問領域を構築することにほかなりません。

「グローバル関係学」事業では同種の問題意識、研究方向性を持つ若手の研究者の協力を、社会科学、人文科学、自然科学の分野を問わず、幅広く求めており、上記の日程で、第2回「グローバル関係学若手研究者報告会」を開催いたします。

※プログラムは裏面の通り



新学術領域研究「グローバル関係学」若手育成委員会

京都大学「アジア太平洋研究ユニット」／東南アジア地域研究研究所環太平洋研究ハブ研究拠点／東南アジア地域研究研究所CIRAS統括プロジェクト企画研究「アジア太平洋地域における変動動態と21世紀秩序の構築」



国立大学法人千葉大学
CHIBA UNIVERSITY



2018年12月8日（土） Dec.8 (Sat.)

司会進行 石戸 光（千葉大学）

- 9:30～ 開場・受付
- 10:00～10:30 開会の挨拶 およびショート講演 酒井 啓子・千葉大学教授 Opening Remark and short speech
- 10:30～11:30 基調講演 立本成文・京都大学名誉教授「神々の闘争～グローバル・ヒューマニクスは可能か」 keynote speech
- 11:30～12:10 岩倉 洸（京都大学）「アゼルバイジャン・モデルのイスラーム管理とその揺らぎ」（討論者：岩坂将充（同志社大学））
- 12:10～12:50 Marwa Ahmad（同志社大学）“An Exploratory Approach to the Use of Mobile phones by Young Syrian Refugees”
(討論者：酒井啓子（千葉大学）)
- 12:50～13:50 【ランチタイム lunchtime】
- 13:50～14:30 黄國誦（早稲田大学）“Rise of China - China as Responsible Global Power”(討論者：鈴木絢女（同志社大学）)
- 14:30～15:10 謝志海（共愛学園前橋国際大学）「中国の海洋進出と諸国の対応：アジア海洋秩序の再構」（討論者：鈴木絢女（同志社大学）)
- 15:10～15:50 小阪裕城（関西外国語大学）「世界女性会議に参加するということー「国連婦人の十年」と世界女性会議をめぐる日本人女性たちの歴史経験ー」（討論者：中山裕美(東京外国語大学)）
- 15:50～16:00 【休憩 coffee break】
- 16:00～16:40 水野 貴之（H29年度公募研究採択）（国立情報学研究所）「人流ビッグデータによる多文化共生社会における空間的な分断の見える化」（討論者：矢野桂司（立命館大学））
- 16:40～17:20 ハガグ・ラナ（日本学術振興会／日本女子大学）「アラブ社会におけるグローバリゼーションとアラビア語の「危機」」
(討論者：岡真理（京都大学）)
- 17:20～18:00 山下瑠子（早稲田大学）「「重なり合う合意」の可能性についてーフランスにおけるヴェール問題を事例としてー」（討論者：岡真理（京都大学）)

2018年12月9日（日） Dec.9 (Sun.)

司会進行 帯谷知可（京都大学） 郡大学）

- 9:00～ 開場・受付
- 18:00～18:10 酒井 啓子 閉会の挨拶 Closing Remark
- 9:30～9:40 開会の挨拶 石戸 光（千葉大学） Opening remark
- 9:40～10:20 細井友裕（東京大学）「国家形成研究の視角からみる国家建設」（討論者：落合雄彦（龍谷大学））
- 10:20～11:00 佐藤裕視（東京大学）「アフリカにおける越境的自決勢力の逆説-1950年代トーゴランド統一運動に関する考察-」
(討論者：落合雄彦（龍谷大学）)
- 11:00～11:40 河村真実（神戸大学）「リベラルな多文化主義における権利論の再構成ーアラン・パッテンを手がかりに」
(討論者：石田憲（千葉大学）)
- 11:40～12:20 佐藤信吾（慶應義塾大学）「意味を巡る闘争ー特攻の字義解釈の日米間相違ー」（討論者：石田憲（千葉大学））
- 12:20～13:10 【ランチタイム lunchtime】
- 13:10～13:50 宮地隆廣（H29年度公募研究採択）（東京大学）「ラテンアメリカ先住民人権レジームの「逆行」現象とその含意：先住民直接参加
の国際組織を事例として」（討論者：村上勇介（京都大学））
- 13:50～14:30 上砂考廣（大阪大学）「第三世界における植民地主義とナショナリズム：＜東ティモール独立紛争のインドネシア化＞をてがかり
に」（討論者：西芳実（京都大学））
- 14:30～15:10 榎木美樹（名古屋市立大学）「インドにおける亡命チベット人の非農業型定住地における生計戦略：ウッタラカンド州デラドゥン市ク
レメントタウンを事例に」（討論者：藤倉達郎（京都大学））
- 15:10～15:20 【休憩 coffee break】
- 15:20～16:00 牧野冬生（H29年度公募研究採択）（駒沢女子大学）「カンボジアのローカルな慰霊の場と『共通の当事者性』
に関する試論」
(討論者：武田龍樹（京都大学）)
- 16:00～16:40 李真恵（京都大学）「現代カザフスタン・コリョ・サラムのアイデンティティ形成」（討論者：中山大将（京都大学））
- 16:40～17:20 清野薫子（東京医科歯科大学）「紛争経験地域における食糧アクセスと健康状態」（討論者：井上あえか（就実大学））
- 17:20～17:30 閉会の挨拶 酒井啓子 closing remark